

「白神ねぎ」10億円販売達成功労(貢献)者の方々

組合長より表彰されたの方々

→ねぎ部会長 山谷 初男様



→前ねぎ部会長 工藤 巖様



→元ねぎ部会長 熊谷 治様



→元能代市技術センター
所長 木村 清幸様(右)



ねぎ部会より表彰された団体

→JAあきた白神
園芸メガ団地連絡協議会様



→農事組合法人
轟ネオファーム様



「白神ねぎ」10億円販売達成までの軌跡

年代	主な取組
昭和25年頃	能代市近郊・郊外の野菜栽培の盛んな集落で、冬期間の現金収入源としてねぎが導入された。1戸当り10a程度の作付面積で、主にリヤカー販売していた。
昭和45年頃	県単畑作パイロット事業で、河戸川地区に畑地100haが造成された。これを契機に、本格的なねぎ栽培が開始される。
昭和60年	8kg(二貫)の巻きダンボール出荷から、5kgダンボール詰めに荷姿が変更される。販売高1億円を達成する。
昭和61年	農家個々の出荷バラツキが散見されたことから、選別の厳しい検査体制を確立した。
昭和62年	販売額2億円を突破する。
平成16年	出荷数量2,000t、販売額5億円を突破する。
平成22年	ゲリラ豪雨とその後の気温急上昇により軟腐病が発生した年であったが、全国的にねぎが高騰し、販売額9億6千万円を達成する。
平成25年	平成25年2月に「白神ねぎ」10億円販売達成プロジェクトチームを発足。販促用のステッカー、のぼり、絆纏などを作成し「白神ねぎ」のブランドとしての確立を目指す。
平成26年	園芸メガ団地育成事業(県単)に取組み、能代市轟地区内に整備する。「白神ねぎ」のラッピングトラックが動く広告塔として活躍する。
平成27年	行政及び関係機関の支援と生産者の努力により販売額10億円を達成する。